



# 六中だより

～学校教育目標～

“ 学力と情操 ”

“ 健康と忍耐力 ”

“ 勤労と責任 ”

## 祝いの言葉（入学式 式辞にかえて）

校長 黒 沼 正 彦

新入生の皆さん、入学おめでとう。府中第六中学校へようこそ。急な入学式中止の決定に皆さんもさぞかし驚いたことでしょう。六中の先生方も昨日ぎりぎりまで入学式ができることを望んで準備をしていました。このような形での中学校生活のスタートとなってしまいましたが、皆さんは今日から立派な中学生です。担任の先生からの呼名もできませんが、校長の私は、名簿の皆さん一人一人の名前を見て、今朝、皆さん二百五名の入学を確認しました。皆さんに私の好きな言葉「樂せず樂しめ」を贈ります。私はいつも自分に向けて、この言葉の通り生きているか問いかけています。誰でも毎日やるべきいろいろなことに出会います。楽しようという気持ちでいると、辛かったり苦しくなったりします。それに対して何でも楽しんでやっという気持ちでいると、楽しくあつという間にいろいろできてしまうのです。同じ樂という漢字なのですがおもしろいですよね。皆さんには、三年間ここ府中第六中学校で、積極的にいろいろなことに挑戦し楽しんでもらいたいと思っています。府中第六中学校には府中六中スローガン「信頼と思いやり」があります。これもすてきな言葉です。「信頼と思いやり」につつまれた場所なら、人は安心して、何でも楽しくできますね。大切なのはこの「信頼と思いやり」の世界は誰かに与えられるものではないということです。ここにいる一人一人の皆さんが、自分でつくるという意味を持つことが大切だと思います。どうやってつくったらよいかわかりますか。いつも周りの人が楽しくなる言葉を言い、行動する、それだけです。次に、六中生の誇りの話をします。「あいさつ」「ボランティア」「合唱」です。この三つは今の六中の誇りです。二、三年生、そして卒業していった多くの先輩が、共に築いてきた六中の宝です。皆さんも大切にして母校に誇りを感じられる六中生になってください。家に帰ったら保護者の皆さんに、校長が、おめでとうの言葉とともに、「六中の教職員一同は、入学した二百五名の生徒一人一人の成長と未来に目を向け、親身になって寄り添う指導に、力を注いで参ります。」と言っていたと伝えてください。

最後に、六中は、多くの地域の方々に支えられた学校であることを伝えておきます。今日は、残念ながら府中市の教育委員会や、たくさんのご来賓のご臨席を賜ることはできませんでしたが、皆さんを多くの大人が見守ってくれていることも忘れないでください。

皆さんは本校五十五回目の大切な新入生です。胸を張って進んでいってください。

令和二年四月七日 放送室より



## 歓迎の言葉

今年は桜の開花も早く、皆さんとの出会いを一日でも早く待ちわびる在校生や先生方のはやる思いのようでした。新入生の皆さん保護者の皆様ご入学おめでとうございます。

今日、皆さんが初めて教室に入ったときどんな気持ちだったでしょうか。「どんな人がいるだろう」「あの人と話せるかなあ」といった興味と不安が入り混じった感覚を覚えた人が多いと思います。しかしそのような気持ちも、授業やテスト、行事などに取り組む中で薄れていくものです。勉強にも同じことが言えます。テスト・試験の不安を感じる時、勉強を頑張ることで不安がなくなっていきます。内容も難しく覚える数も多くなりますが、皆さんの努力がその不安を和らげてくれるでしょう。

さて、今年の三月は新型コロナウイルスの影響で府中市の小中学校は一斉休校となりました。皆さんはその期間どのような気持ちで過ごしましたか。仲間と会うことができず、活力を失ってしまった人も多いのではないのでしょうか。いかに身の回りの人の存在が大きかったかを感じたと思います。中学校では小学校より仲間の輪が広がります。よりたくさんの人と関わっていろいろな人がいるなあという多様性を感じると思います。そこで皆さんには、人は自分も含めてそれぞれ違うということを知り受け入れてほしいです。多様な価値観を共有し、尊重しあい個性を大切にすることで、皆さんの可能性が広がると思います。

さあよいよ新しい生活が始まりますね。たくさんのお出会い、楽しみ、困難が待ち受けていることでしょう。皆さんには、いつでも周りに自分を支えてくれる人がいます。喜びも悲しみも分かち合いましょ。周りの人のからの皆さんへの期待は、上からのしかかるものではなく、皆さんの背中を後ろからそっと押してくれるものです。

皆さんの力を存分に発揮して、より良い仲間・学年・学校を共に作っていきましょう。

令和二年四月七日

在校生代表 田尾大地

## 誓いの言葉

まだ、中学生になったという実感がわからないというのが正直な気持ちでもあります。新しい制服を身にまといワクワクしている自分もいれば、これから始まる新しい生活や勉強を不安に思っている自分、部活動などへの期待に胸を膨らませている自分もいます。

中学校では、慣れないこと、分からないこと、知らないことがたくさんあります。小学校にはなかったこともあります。その中でも私が特に頑張りたいことは、中間テストや期末テストです。いい点が取れるように授業の内容をしっかりと理解して、復習をきちんとしたいです。

また、中学校生活で私が楽しみにしていることがあります。それは六中の二大行事である体育大会と合唱コンクールです。クラス対抗となって行う体育大会や合唱コンクールは、とても盛り上がると思います。友達やクラスメイトと協力をして、最高の思い出となるような行事にしたいです。

私には、この中学校生活で大事にしたいことがあります。それは、「個性を大切にすること」です。個性を大切にすることは、相手を認める、他人を理解するなど、様々な意味があると思います。この言葉を胸に刻み、三年間の中学校生活を歩んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルスの影響で卒業式や入学式が短縮されるこの厳しい状況を、動揺せずに私たちは乗り越えていきたいです。

これからの中学校生活では、たくさんご迷惑をおかけすると思いますが、先生方、先輩方、保護者の皆さん、地域の皆さん、三年間よろしくお祈りします。

令和二年四月七日

新入生代表 山口紗季



## 始業式の言葉

私が新しい校長です。黒沼正彦 といいます。よろしくお願いします。

初めに、皆さんに私の好きな言葉「樂せず樂しめ」を贈ります。

私はいつも自分に向けて、この言葉の通り生きているか問いかけています。誰でも毎日やるべきいろいろなことに会います。楽しようという気持ちでいると、辛かったり苦しくなったりします。それに対して何でも楽しんでやっという気持ちでいると楽しくあつという間にいろいろできてしまうのです。同じ樂という漢字なのですがおもしろいですよね。

六中はあいさつがすばらしく、生徒の皆さんが生き生きと何でも楽しんでやっという学校だと本橋校長先生に聞いています。

そんな皆さんなら「樂せず樂しめ」の言葉の意味はおわかりですね。

皆さんには、新型コロナウイルスの影響で、いろいろな我慢や辛いことをお願いしています。申し訳ないと思っています。

卒業式に在校生が参列できず、ありがたの気持ちを直接伝えられないことのもどかしさを六中の先生たちも考えてくれていて、先生たちはいろいろ工夫してしっかり見送り、卒業生も立派に卒業して行ったと聞いています。その姿を見せられなかったことがとても残念だと本橋校長先生はおっしゃっていました。

入学式も同じですが、学校が通常に戻った時、皆さんが上級生として新入生に立派な先輩としての背中を見せてくれるものと信じています。

六中は今年度から、特別支援教室（通級）拠点校となり、六中の中に、通級の先生が在籍し、六中と六中以外の中学校の支援を必要とする生徒のために各学校を巡回することになっています。

これは私自身の考えなのですが、人はだれでも誰かの支援が必要で、みんながお互いに支援しあって生きていると考えています。例えば、私は眼鏡をかけています。眼鏡がなければ少し離れた大好きな人を見つけ、手を振ることもできません。眼鏡というものを作ってくれる人、それを売ってくれた人に支援され、今の生活が成り立っています。眼鏡で見えるおかげで、少し離れているところにいる人が困っていたら、そばに行っというどうしましたかと声もかけられます。お互い様だと思えます。「特別支援」という言葉は本当は「だれでもお互い支援」じゃないかなと思っています。大切なのは、困っている人が他の人に支えられることは、恥ずかしいことでも、遠慮することでも、ましてや馬鹿にされることでもないということです。言いたいのは六中が、だれでも遠慮なくお互いに支援しあうことができる府中市の学校の中心の一つを目指しているということです。そのことをぜひ覚えておいて、皆さん一人ひとりにもできることをお願いしたいと思っています。

今までの六中のすばらしさを維持しつつ、新たな素晴らしい面もみんな育てていきましょう。

以上で始業式の話が終わります。



# 府中六中 スローガン「信頼と思いやり」

◆教職員の異動について

◆学年所属について

◆講師関係

## 願・学校生活再開

2年度は六中生618名でスタートしました。まさかの臨時休校・延長。始業式、入学式以後、クラスの仲間の顔を見られない日々が続いています。新型コロナウイルス感染拡大も収束し、また六中生みんなが直に集い、色々なことを一緒に共有できますように。

保護者・地域のみなさまにおかれまして、直にご挨拶できていませんが、今年も色々ご協力をお願いいたします。